

第 18 回伊那市地方創生総合戦略審議会 会議録

開催日	令和4年8月23日(火)			
開催時間	開 会	午前9時30分	閉 会	午前11時
開催場所	市役所 多目的ホール			
委員出席者	伊那市議会	唐澤 千明		
	伊那地区区長会	中山 昭		
	高遠町地区区長会	丸山 保		
	長谷地区区長会	伊澤 隆一		
	上伊那農業協同組合	唐澤 武治		
	上伊那森林組合	富山 裕一		
	伊那商工会議所	向山 賢悟		
	地域交通事業者	藤澤 宏正		
	連合長野上伊那地域協議会	日比野 誠		
	伊那市社会福祉協議会	小池 浩史		
	伊那市教育委員会	北原 秀樹		
	中部PTA連合会	江連 英		
	伊那市保育園保護者会連合会	高嵩 厚志		
	伊那市観光協会	向山 知希		
	公募	鈴木 孝之		
欠席者	伊那青年会議所	土橋 正史		
	長野県経営者協会 上伊那支部	橋爪 岳郎		
	伊那市金融団	吉田 秀樹		
	信州大学	酒井 俊郎		
	伊那市女性人材バンク	唐澤 桂子		
	アドバイザー	鳥羽 秀行 (上伊那地域振興局企画振興課)		
	アドバイザー	天野 馨南子 ((株) ニッセイ基礎研究所)		
出席した事務局職員等	副市長	伊藤 徹		
	企画部地域創造課長	田中 久		
	企画部地域創造課人口増推進係長	唐澤 雅也		
	企画部地域創造課人口増推進係	浦野 真由美		
	企画部地域創造課人口増推進係	青樹 万由子		
	企画部地域創造課人口増推進係	田尻 勇木		
	新産業技術推進コーディネータ	志知 貴文		
議 事	(1) 地方創生総合戦略について (2) 地方創生交付金について (3) 地方創生交付金活用事例について ・「伊那 MR スクエア」 ・シェアリングエコノミーサービス「こころむすび」 (4) その他			

配布資料	資料 1 伊那市地方創生総合戦略審議会条例 資料 2 第 2 期伊那市地方創生総合戦略 重要業績評価指標 (KPI) の令和 3 年度進捗状況 資料 3 地方創生交付金の概要 資料 4 第 2 期伊那市地方創生人口ビジョン・総合戦略の概要 (抜粋) 参考資料 1 第 2 期伊那市地方創生総合戦略 参考資料 2 第 2 期伊那市地方創生人口ビジョン 参考資料 3 シェアリングエコノミーサービス「こころむすび」事業概要 参考資料 4 「伊那 MR スクエア」事業概要
------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

1 開 会

2 副市長あいさつ

- ・昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響で審議会が開催できず 2 年ぶりの開催となる。
- ・「日本を支えるモデル地域」の実現を目指し、人口減少対策と経済を縮小させないための対策を柱に、移住・定住の促進や安定した雇用の確保、福祉の充実を図るとともに、IoT を活用した新産業技術の推進、木質バイオマスのブランド化によるソーシャル・フォレストリー都市の創造、低炭素社会の実現に向けた再生可能エネルギーの導入など、先駆性のある事業にも積極的に取り組んでいく。

3 会長（富山裕一氏）あいさつ

- ・微力ではあるが委員の協力を賜りながら有意義な会にしていく。

4 副会長（向山賢悟氏）あいさつ

- ・少子高齢化、人口減少をはじめとする地域課題を解決するため、委員それぞれ立場での意見をお願いする。

5 会議事項（進行：富山会長）

（1）地方創生総合戦略について

① 伊那市地方創生総合戦略審議会の役割について

会 長： 事務局から説明をお願いする

事務局： （資料 1 により説明）

② 第 2 期伊那市地方創生人口ビジョン・総合戦略について

事務局： （資料 4 により説明）

③ 第 2 期伊那市地方創生総合戦略重要業績評価指標（KPI）の令和 3 年度の進捗状況について

事務局： （資料 2 により説明）

（2）地方創生総合戦略について

事務局： （資料 3 により説明）

会 長： 説明内容について、意見、質問等はあるか

委 員： 小学校不登校事業の割合について、令和 3 年度実績が KPI に対して倍以上悪化している状

況に対して、今後の対応が中間教室の充実としか書かれていないが、見て見ぬふりということか。どのような方針なのかを聞きたい。

委員： 以前、総合戦略を策定する会議の中でも、不登校の問題は子供を無理やりにでも学校に通わせればよいというわけではなく、多様な社会の中で学校に通わせることが最善なのか、単純に不登校児童の割合を下げればよいわけではないのではないかと問題提起をした委員がいた。また、子どもを学校に通わせるだけでなく、子どもを社会の中で取り残されないようにする対策が必要ではないかという提案があった。学校ではなく中間教室に通うことでKPIが悪化したという結果なのかは確認が必要ではないか。

事務局： 本件はデリケートな問題であることを認識している。また、数値で表すことのできる問題なのかという疑問があることも承知している。現状の対策では中間教室の充実が一つの解決策となっているが、具体的な部分は担当課に確認し、後日回答する。

委員： 自身は農業に従事しているが、地方創生の課題を解決するためには人口を増やすのが一番だと考える。また、人口を増やすためには働く場所を作っていく必要がある。働く場所を作っていくと農地が減少する。地方創生の観点でこの矛盾をどのように整合性をとっていくかの検討が必要と感じる。なお、様々なデータを提示されているが、どの事業が人口増加に最も効果的だったのかは分かっているか教えてほしい。

事務局： 人口増加の柱として雇用の場と住まい、子育て環境が重要と考えている。総合戦略を進める中でバランスよく、計画に整合をとりながら進めていきたい。

個々の事業でどれだけ人口が増加したかを数値で示すのは難しいが、事業全体を進めることで令和27年に人口58,000人という達成することが事業全体の趣旨である。直近では平成29年度に年間100名程度が市の窓口を経由して移住している。令和3年度は過去最大の163名が移住した。年齢構成は30代、40代の世帯が8割を占め、若い世代が子育て環境を求めて移住している。移住希望者は雇用の場を求めているため、しごとや住まいも必要となってくる。また、伊那市に元々住んでいる方について、社会動態は平成29年以降減少しており、令和3年度は171名減少している。今後は総合戦略の中で定住策についても力を入れていきたい。

委員： 移住先として伊那市に魅力を感じている方が多い中で人口が減少している要因として、若い女性が学校卒業後に伊那を離れてしまうということが挙げられる。伊那市に残っている女性に対して、なぜ残ったのか、残ったことに喜びを感じているのか、感じていないのであればどのようにすれば喜びを感じられるのかなどの意見を聞き、伊那市の魅力の創出、アピールをすることで若い世代の方の転出を抑制できるのでないか。現状では伊那市に残っている女性の声を聞く機会があまり作られていないのではないかと感じる。このような機会の創出に予算を使えないか。

事務局： 若い女性の活力を活用する機会が少ない現状は把握している。地方創生の中で女性の活躍が大きな柱になっているため、今後様々な支援を検討していく。

委員： 自身も6年前に移住したが、しごと探しが一番の障害だった。現在はテレワークを基本としており、テレワークを機に地方へ移住している方も増えている。伊那市を都市化する必要なく、農地や自然を生かしながら、子育て環境や生活環境などの伊那市の魅力を発信し、テレワークでも仕事ができるという選択肢も伝えることも必要ではないか。

事務局： 近年、働き方が多様化しており、テレワークなどもその1つである。移住相談も年間500件

程度受けているがテレワークを希望する方も増えているため状況を踏まえて対応していく。魅力発信、情報発信についても後述の地方創生交付金事業で整備した 2 事業を活用し、市の魅力を発信していく。

(3) 地方創生交付金事業について

会 長： 事務局から説明をお願いします

事務局： (参考資料 3、参考資料 4 およびデモンストレーションにより説明)

会 長： 全体を通して、意見、質問等はあるか

委 員： モデル地域構想という中で子育て支援事業の充実を通して人口減少対策に繋げていくことになるかと思うが、子育て支援関係の KPI として待機児童 0 人など挙げられているが薄いと感じる。保育園全体を見ても老朽化している園が多数ある。保育環境の整備などに関してハード面、ソフト面ともに具体的な内容として落とし込んでいくことが人口減少対策には必要ではないか。

事務局： 計画の修正、KPI の見直しをしながら進めていくことで充実を図っていく。今回の意見を担当課にも共有し、内容を精査していく。また、地方創生交付金のソフト事業として市内の全保育園に ICT システムの導入、子どもの見守り連携などのシステム化を進めており、進捗に合わせて報告をしていく。

委 員： MR スクエアについて、しごとに関する部分はイメージとして出していくのか、具体的な求人として出していく機能を追加していくことができるのか。実際の求人マッチングをしていくのか、特徴のある方の紹介を通して魅力を感じてもらうことで同様の方を集めるのか、目的はどちらなのか。

事務局： 伊那市は令和 3 年度末に無料職業案内所の資格を取得し、市の地域創造課の移住相談窓口で無料職業案内を始めている。MR スクエアでも今後、必要に応じて情報を掲載していく。目的は 2 つあり、市外からの移住者のしごとと U ターンで市に戻ってきたいと考えている若い世代の就職先である。広く相談にのりたいと考えており、企業から求人情報を収集しながら整備している。計画の修正、KPI の見直しをしながら進めていくことで充実を図っていく。今回の意見を担当課にも共有し、内容を精査していく。

6 その他

特になし

7 副会長閉会のことば

- ・業績評価の資料のとおり、様々な取り組みがなされていることを改めて感じた。
- ・コロナ禍における「努力を要する」取り組みが多くあったが 3 年目を迎えているため、コロナ禍だからこそ見えてきた課題、工夫ができた取り組みを積極的に進めていきたい。
- ・現在、第 7 波の最中ではあるがコロナを言い訳にせず、地方創生を図ってほしい。

8 閉会